



知識 [Knowledge] と行動 [Behavior] で問題解決 [Solution] を支援

KBS は「HANDS ON 型」で、観光・サービス業界を支援します。http://www.kbsbiz.com E-Mail:info@kbsbiz.com

この2年間新型コロナウイルス感染症の猛威に見舞われ、わたしたち観光業界は大きな痛手を被りました。このような未曽有の危機に際し、弊社としましては行政、各種支援機関、金融機関と連携を図りクライアント様の事業継続や事業再構築の支

援に奔走してまいりました。コロナ禍が3年目となりようやく社会活動、経済活動を日常に戻すべく動き出し始めた感があります。しかし油断はできません。ウイズコロナを意識した経営の舵取りが求められます。コロナ前の2019年に戻ることを期待するのではなく、新たな事業環境での再出発と捉え、共に頑張っていきましょう。

株式会社KBS創研・株式会社KBSエンタープライズ 代表取締役 小泉 壽宏



KBSエンタープライズの旅行流通事業・沖縄事業

金武町ツーリズム推進協議会様が、 農林水産省「令和4年度農山漁村振興交付金事業」を受託!

農業・漁業関係者、町民、自治体、観光協会、観光事業者が連携し、金武町の農水産資源を活かした新たな滞在型観光の創出に挑戦します。

~沖縄県·国頭郡金武町~

きんちょう

■沖縄県・金武町とは

沖縄県・本島のほぼ中央部に位置しており、那覇空港より沖縄自動車道を利用し約60分の場所に位置しています。人口は約1万1千人で、沖縄の代表的な農作物のひとつ田芋の生産地として名高いです。

町内の観光は、マングローブが自生する億首川を中心としたカヌー等の自然体験の他、平成23(2011)年に返還されたギンバル訓練場跡地に建設された野球場、サッカー場等のスポーツ施設を活かしたスポーツツーリズムやKINスポーツ・整形クリニック等高度医療施設と連携したヘルスツーリズムが行われています。



■金武町の観光が抱える課題

・修学旅行客の減少への対応

少子化に加え、修学旅行を国内から海外に振り替える学校や京都、北海道等他地域との競合も厳しくなり、沖縄県、金武町とも減少傾向にあります。(図表1,図表2)また新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」)の拡大によりこの傾

向に拍車がかかっています。

農泊の受入れ体制を充実させるとともに地域資源を活用した食や体験コンテンツの開発を進め、他地域への競争力を高めることが課題となっています。

(図表1)沖縄県全体の修学旅行の入込状況



	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年
校数	2,555	2.473	2,514	2,475	2,455	2.398
対前年増減比	2.4%	A 3.2%	1,7%	1 .6%	▲0.8%	A 2.3%
人数	450,959	438,854	442,113	432,134	429,224	409.011
対前年増減比	3.4%	▲2.7%	0.7%	▲2.3%	▲0.7%	▲4.7%

(図表2)金武町の修学旅行の入込状況

		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31·令和1年度
扱い	学校数	_	12	23	46	46	51	43	49	50	47
	県内順位	_	24	22	14	16	13	15	15	15	16
	県内シェア	_	0.2%	0.5%	1.0%	0.9%	1.1%	0.9%	1.0%	1.1%	1.0%

(出典:沖縄県平成22年~令和1年度「修学旅行入込状況調査」)

・町内連携と人材不足への対応

本町の観光はNPO法人雄飛ツーリズムネットワークが運営するネイチャーみらい館が中心となって展開してきましたが、町内の事業者との連携は一部に留まっています。特に農業、漁業関係者との連携は十分とは言えません。本事業に

より農業、漁業関係者を中心にギンバル訓練場跡地のスポーツ、医療や本年新たに開業するレジャー施設、飲食等様々な業種の事業者と連携を図る必要があります。

またこれらを実際にコーディネートする人材も不足しています。 上述の課題を解決していくために不可欠な課題です。

■本事業を活用した金武町の新たな挑戦

このような課題を解決するため農業・漁業関係者、町民、自治体、観光協会、観光事業者が連携し、金武町ツーリズム推進協議会(河上章一会長)が発足。農林水産省「令和4年度農山漁村振興交付金事業」を受託し、主に以下の取り組みを行います。

・農家民泊(農泊)の受入れ体制の充実

農業関係者や地域住民との連携を強化し、農家民泊(農 泊)を受け入れてくださる民家の確保や受入れスキルの向 上や感染対策等のルール化、マニュアル化、教育を実施し ます。

まず受入れルールを明確化し受入れ民家に提示して理解を頂きます。そのために地域住民に向けた説明会を行うとともに個別の相談にも応じることで参画を促します。また受入ルールや感染症等の危機管理に対するマニュアルを整備し受入民家に提供するとともに、年に数回これらのマニュアルを活用した講習会を実施し実際の受入れに際してはきめ細かな支援を行っていきます。

・地域資源を活用した、食や体験プログラムの開発

農業、漁業関係者を始め様々な事業者との連携強化により体験プログラムを充実させ、その魅力を発信します。

食のコンテンツは、田芋だけでなく金武産の農水産物を 洗い出し、農家や漁師の生活に根付く料理を商品化します。 具体的には、旅行者が町内の農家、漁師をはじめとした生産者や市場を訪ね、本町の人々の生活に触れあい交流しながら食材を調達。それを持ち寄り、農泊の受入れを行っている民家の人と共に作る「金武弁当」を商品化します。

また体験プログラムも農業体験、漁業体験を拡充します。農水産業の源となる自然環境から学ぶプログラムを生み出していきます。更にプログラムの提供にあたっては安心・安全な受入態勢を構築します。

更にプログラム提供に携わる構成員がSDGsに対する理解 を深めるとともに、本町におけるSDGsについて考え、本町に訪 れる旅行者にも学びにつながるコンテンツ作りを進めます。



写真右より、河上章一会長、仲間寛人事務局長、小泉

KBS エンタープライズは、金武町ツーリズム推進協議会のアドバイザーとして本事業に参画させていただきます。 協議会の皆様や、危機管理、食、SDG s等各部門の専門家の皆様と連携し、金武町の発展に寄与してまいります。



今月号は沖縄県金武町の話題。楽天イーグルスが春季キャンプを張ることもあり、多くの人が健康的で自然豊かな観光地というイメージを抱いているようです。しかしコロナ禍に加え修学旅行客の減少などの課題を抱える中、農業・漁業関係者、町民、自治体、観光協会、観光事業者が連携し、金武町ツーリズム推進協議会が発足。農林水産省「令和4年度農山漁村振興交付金事業」を受託し、課題解決に向けて動き出しました。連携や人材不足はどの市町村でも共通。同町での取り組みが注目されています。(増田)

KBS グループ

株式会社 KBS 創研 経営革新等支援機関 近財金1第 241 号 20130528 近畿第 74 号 株式会社 KBS エンタープライズ 兵庫県知事登録旅行サービス手配業 第 18 号

本社:〒661-0003 兵庫県尼崎市富松町3丁目1-5-203 TEL:06-6423-5561/FAX:06-6423-5571